

古文 随筆

徒然草

兼好法師

今日はそのことをなさんと思へど



講師

畠山 俊

理解を深めるために

■学習のねらい■

人生はどのようなものを考察している段です。言われてみると当たり前のようなことですが、それを意識して、書き出すことができるかと言われるとなかなか難しいと感じます。作者の言いたいことを的確に捉えましょう。

*

*

*

日々の生活について考える

「今日これをやろうと思う。あの人が来るだろうと考える。こういうことがあるだろうと期待する。そういうことはかなわないことが多い。同じように面倒なことが簡単にできることもある。毎日毎日、一年も、一生もこのように思い通りにはならない。」当たり前のようにですが、改めて言われないとなかなか意識していないことかもしれません。

■注意する語句

煩はし（形容詞）

「面倒だ」

助動詞の意味を理解する

助動詞が、活用する語に接続する際は決まった活用形から接続することを前回学びました。さらに、助動詞にはそれぞれ意味（現代語訳とは異なる）があります。

む………主語が一人称のときは意志の意味で、現代語訳は「う、よう」。

主語が三人称のときは推量の意味で、現代語訳は「だろう」。

接続は未然形。

ぬ………同じ「ぬ」でも接続が違う場合は異なる助動詞です。

あら（ラ変・未然）＋ぬ（打消・連体） 「ない」

かなひ（ハ四・連用）＋ぬ（完了・終止） 「た」

たり………来（カ変・連用）＋たり（完了・終止） 「た」

助動詞を正しく見分けることは古文を正しく理解することにつながります。

人生について考える

「あらかじめ考えていたことはみんな違ってしまいかと思うと、考えていた通りになることもある。世の中は定め難いと理解していれば、間違いない」と作者は言います。このまとめも当たり前のようにも思えますが、このようなことを意識していることはあまりありません。ふだんは意識していないことを見つけて書き出すのも作者兼好法師の得意分野です。

■注意する語句

心得（動詞、ア下二） 「理解する、悟る」



徒然草

兼好法師

今日はそのことをなさんと思へど

講師

畠山 俊

今日はそのことをなさんと思へど、あらぬ急ぎまづ出で来てまぎれ暮らし、待つ人は障りありて、頼めぬ人は来たり。頼みたる方のことは違ひて、思ひ寄りぬ道ばかりはかなひぬ。煩はしかりつることは、ことなくて、易かるべきことは、いと心苦し。日々に過ぎゆくさま、かねて思ひつるには似ず。一年のうちもかくのごとし。一生の間もまたしかなり。

かねてのあらまし、みな違ひゆくかと思ふに、おのづから違はぬこともあれば、いよいよものは定め難し。不定と心得ぬるのみ、まことに違はず。

【第百八十九段】

【現代語訳】

今日はそのことをしようと思っても、別の急用が先にできて取り紛れて一日過ごし、(また、来訪を) 待っている人は差し支えがあつて(やつて来ず)、来ることをあてにさせない人はやつて来る。期待している方面の事柄はうまく行かなくて、思いがけない方面のことばかりがうまく行つてしまふ。面倒だと思つていたことは、無事に済んで、たやすいはずのことは、たいそう面倒でつらい。(このように) 毎日毎日過ぎて行く様子は、前もつて考えていたのには似ていない。一年の間もこのようである。一生の間もまたそうである。前からの予測は、すべてはずれて行くのかと思うと、たまにははずれないこともあるので、ますます物事は決めることは難しい。不確かで定め難いことだと悟ることだけが、真実であつてはズれることがない。